

[成果情報名] ガーベラでは初夏に過度の遮光をしないことで増収する

[要 約] ガーベラ栽培において、春から初夏(5～7月)にかけて過度の遮光をしないことで、収穫できずに枯死してしまう花芽の数が減少することにより、商品花収量が増加する。

[キーワード] ガーベラ、日射量、採光増加

[担 当] 静岡農林技研・花き生産技術科

[連絡先] 電話0538-36-1555、電子メールagrikaki@pref.shizuoka.lg.jp

[区 分] 関東東海北陸農業・花き

[分 類] 技術・参考

---

#### [背景・ねらい]

ガーベラでは、突発的な強日射への暴露などが原因で起こる花茎の曲がりを抑制するため、4～10月に朝から夕まで遮光を行うことが多い。一般に多くの農産物では日射量の増加は増収につながるとされている。ここでは、遮光を強、中、遮光なしで栽培した場合のガーベラの生育への影響について明らかにする。

#### [成果の内容・特徴]

- 1 遮光強度を強くするほど、温室内の日射量は減少する(図1)。
- 2 過度の遮光をしないことで、枯死花芽数が減少し、また、頂花の開花間隔および展葉日数<sup>1)</sup>の短縮が見られる(表1)。
- 3 過度の遮光をしないことで、商品花収量は増加し、5月中旬～7月中旬では遮光なし区で最も商品花収量が多くなる(図2)。
- 4 過度の遮光をしないことで、切り花重、花茎径、花径が増加する(表2)。

#### [成果の活用面・留意点]

- 1 商品花は花茎長40cm以上かつ花茎径4.5mm以上を満たすものとした。
- 2 本試験における遮光処理について、強遮光区は常時、養液ベンチの上部および南北を遮光率100%、東西を遮光率70%の資材で覆い、中遮光区は常時、上部および東西南北を遮光率70%の資材で覆い行った中での結果である。
- 3 本試験は5月中旬～7月中旬における‘チェレキ’、‘キムシー’における結果であり、より暑く日射量の多い時期や品種によっては、遮光処理を全くしないと花茎曲がりによる非商品花が発生する可能性があることに留意する。
- 4 過度の遮光をしないことで、切り花重、花茎径、花径は増加するが、花茎長は僅かに短くなる可能性がある点に留意する(表2)。
- 5 頂花の開花間隔は頂花が開花してから次の頂花が開花するまでの日数を表し、展葉日数は葉が伸びて目視で確認できるようになってから展開し終わるまでの日数を現す。いずれもガーベラの生育速度を示す指標となり、短いほど生育速度が速い。

[具体的データ]

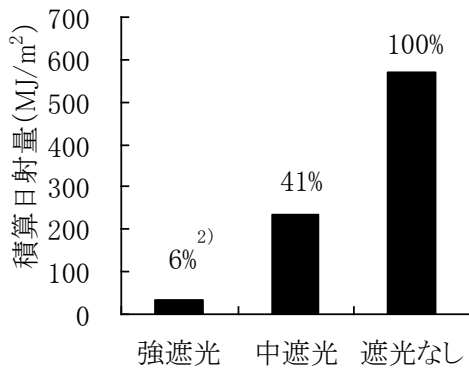


図1 遮光処理別の積算日射量の違い<sup>1)</sup>

- 1) 期間：2018年5月15日～7月17日  
 2) 数字は遮光なし区に対する割合を表す

表1 遮光処理別のガーベラ枯死花芽数、頂花の開花間隔<sup>1)</sup>、展葉日数<sup>2)</sup>等の違い<sup>3)</sup>

項目	チェキ			キムシー		
	強遮光	中遮光	遮光なし	強遮光	中遮光	遮光なし
枯死花芽数(個)	96	39	16	135	59	26
頂花の開花間隔(日)	- <sup>4)</sup>	26	21	-	32	26
芽あたり分枝数(個)	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
芽あたり葉数(枚)	3.5	3.6	3.5	3.9	3.9	3.8
展葉日数(日/枚)	-	7.4	6.0	-	8.2	6.8

- 1) 頂花の開花間隔：当該芽の頂花開花日から、次の腋芽の頂花開花日までの日数  
 2) 展葉日数：頂花の開花間隔÷芽あたり葉数として算出  
 3) 株あたり3芽、処理区あたり計48芽について6月1日～7月17日までの期間調査  
 4) -：強遮光区では頂花の枯死が多発し、集計できなかったためデータ無し

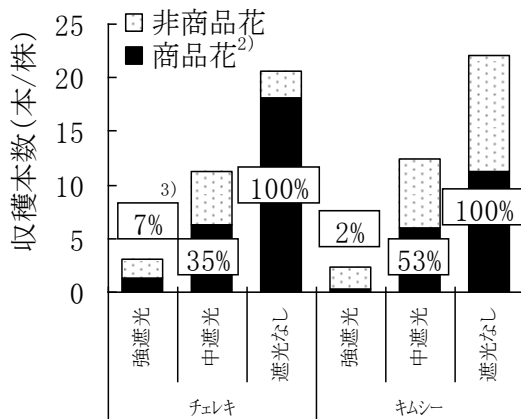


図2 遮光処理別のガーベラ収量の違い<sup>1)</sup>

- 1) 期間：2018年5月15日～7月17日  
 2) 商品花：花茎長40cm以上かつ花茎径4.5mm以上を満たすものとした  
 3) 数字は商品花収穫本数の遮光なし区に対する割合を表す

表2 遮光処理別のガーベラ切り花品質の違い<sup>1)</sup>

項目	チェキ			キムシー		
	強遮光	中遮光	遮光なし	強遮光	中遮光	遮光なし
切り花重(g)	12.6	12.9	14.2	10.2	12.3	13.1
花茎長(cm)	50.8	51.5	47.7	41.5	45.4	40.9
花茎径(mm)	4.5	4.6	5.1	4.0	4.4	4.9
花径(cm)	7.0	7.1	7.4	6.5	7.3	7.5

- 1) 期間：2018年5月15日～7月17日

[その他]

研究課題名：夏冬を制する技術開発が花き経営の所得を増加させる

予算区分：県単

研究期間：2016～2018年度

研究担当者：梅田さつき、寺田吉徳、岩崎勇次郎、西岡奈々江、幸前宏美